

令和6年2月22日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立松原小学校

校長 新 山 明 子

事業テーマ	「対話」を通して自ら学びを深める松原っ子の育成	
取組の目的	○1人1台端末を効果的に活用しながら、「対話」を通して自ら学びを深められる子の育成 ○学習指導要領で求められる学びの理解と授業力向上	
区 分 (○印を付ける)	新規事業・ 継続事業 （総事業年数 3年間、3年目）	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	2年次の取組を通して「見方・考え方」や「主体的な学び」に関する実践を蓄積することができたものの「対話を通して自ら学ぶ」ことに困難さを抱える児童への支援方策に加え、各教科で獲得した学び方や情報活用能力等を発揮させる場面の充実が課題となった。	
事業名	事業内容	実施時期
1. 1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現	<ul style="list-style-type: none"> 「端末」「対話」「見方・考え方」「主体的」をキーワードに、外部講師による授業参観と指導助言等を通して、1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現をめざす授業研究を行った。 	指導助言 ：年間3回
2. 特別な支援が必要な児童に対する支援策の充実	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の講演等を通して「対話を通して自ら学ぶ」ことに困難さを抱える児童に対する支援策として全校 SST・SGE「にっこりタイム」を試行した。 	講演 ：年間3回
3. 先進校視察	<ul style="list-style-type: none"> 事業に関連する先進校の取組から学んだ。 	適宜（2回）

取組の成果

- ・ 「対話を通して自ら学ぶ」土台をつくるため、全校 SST・SGE「にっこりタイム」を2学期より全校（1～6年生）で実施した。実施方法や留意点等について研修を重ね、取組を軌道に乗せることができた。
- ・ 1人1台端末を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究を重ねた。思考スキルやシンキングツールの活用、見方・考え方を踏まえた授業実践のイメージが更に共有された。また、中学年以上で Google チャットの授業での活用が進むなど、低学年から系統的に情報活用能力の育成が進められた。

課題

- ・ 「にっこりタイム」の取組を継続させ、児童の関係性や自己肯定感の観点から修正を行う。
- ・ 主体的な学びに関連し、教師の指導性を減らし、児童自ら学び方を選択・決定しつつ、自分で学び進める授業について研修を深める必要がある（指導の個別化）。
- ・ 児童が自分の興味・関心をもとに課題設定し、各教科で獲得した学び方や情報活用能力等を発揮しながら学ぶ総合的な学習の時間の在り方について更に研修を深める必要がある（学習の個性化）。